

令和6年度第3回佐伯市子ども・子育て会議記録（抄録）

日 時：令和6年11月29日（金）14時～15時30分

場 所：佐伯市役所本庁舎 6階 第2委員会室

出 席：委員18名のうち16名（2名欠席）

事務局：（こども福祉課）金崎課長、甲斐総括主幹、御手洗総括主幹、吉良副主幹

（学校教育課）染矢総括主幹

（健康増進課）野村総括主幹

（障がい福祉課）大島副主幹

傍聴人数：0名

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 課長あいさつ
- 4 議事

- (1) 第3期佐伯市子ども・子育て支援事業計画の素案について
事務局から資料に沿って説明をした。

【主な質問・意見】

・「ホームスタート事業」の、「子育てに悩みや不安を感じる親子」は「不安や孤立を感じている親子」という表記が妥当ではないか。また「ひとり親家庭の自立支援の推進」の現状と課題に「母子・父子福祉団体の自主的な活動を支援するとともに」とあり施策の中に、「自立支援員を2名配置し、相談に対応しています。」とあるが、佐伯市は今、佐伯市ひとり親福祉会の支援なども行っているので、ここに、例えば、「ひとり親家庭が地域において気軽に相談や交流ができるよう、母子・父子福祉団体の活動を支援する」などの文言を追加したらよりいいのではないかと思う。情報提供の充実などの文言もあればよい。

→修正します。

・「子ども食堂・学習支援」について、「食事の提供や学習支援など」と記載されているが、現在、子ども食堂で行っているのは、食事の提供や交流の場が主になっていると思う。会員さんを限定してされているのもあるが、学習支援と言うと、教育委員会が図書館でされていた学習支援が当たるのかと思うが、これを統合する計画があるのか、これから子ども食堂にそういったものを居場所のような形で依頼していくとか、そういう見通しがあれば教えてほしい。

→施策としては、この「居場所作り」というところと、「食育」もあるのでこういった書き方になるが、必ずしも子ども食堂イコール学習支援ではない。各団体さんにお任せするところにはなるが、子どもさんや親御さんのニーズに合わせて、

そういったことが可能であれば、子ども食堂の中でも支援ということもあり得るというところではある。また違った意味で、子ども食堂プラス子どもさんの居場所ということであっていいと思っているので、必ずしも子ども食堂イコール学習支援ということではない。ただ、施策としては、そういったところで学習支援とともできるような居場所作りがあればということになっている。食育の項目の子ども食堂からは、学習支援を外し、こどもの居場所の項目に学習支援を別枠で事業を立てて載せたい。

- ・用語の解説を入れてほしい。

→用語解説は計画書の最後の「資料編」に入れる予定です。

- ・「障がい児医療的ケア児への支援」で、現状と課題のところの文章の表現が、「障がいのある子どもが地域の中で健やかに育つために、障がいのない子どもと共に成長できるよう」とあるが、障がいのある子どもと障がいのない子どもをわざわざ分ける必要があるのか。その下に、「インクルージョン」と書いている中で、この「ある子ども」、「ない子ども」と分けるような表現が適切なのかと思う。佐伯市の障がい児福祉計画の中で、同じような表現で、『障がいの有無に関わらず児童が共に成長できるよう』とあるので、この障がい児福祉計画と同じような表現記載をしていただけたらいいと思う。

→内容をみて修正します。

- ・支援事業計画の0歳児の3号認定の見込みが、出生数は減っているが、お母さんたちには早く働きに出てほしいなみたいなのがある中で、この数で足りていると認識していてよいか。

→実績による数字なので恐らくこのようになるのではないかとの推測になるが、定員の2割以内なら定員を超えて受け入れることができるので、特定の園を希望しなければ大体の方は入れると考えている。

●承認

- ・第3期佐伯市子ども・子育て支援事業計画の素案について、委員（16名全員）の承認をいただいた。

その他

- ・次回の会議は、2月に開催する。

閉会